

説得型プレゼンテーション能力の向上

— 国際バカロレアの探究型学習を取り入れる —

埼玉県／早稲田大学本庄高等学院 教諭 赤塚祐哉

申請時：東京都／東京都立国際高等学校 主幹教諭

概要

本実践は、探究型学習 (Inquiry-based Learning, IBL) の手法を取り入れた英語プレゼンテーション指導の試みである。IBLは、批判的思考力を育成する手法として知られるが、筆者は、IBLを日本の英語教育に取り入れることで、英語の表現能力の向上に資するだろうと考えた。本実践では、高校生を対象に説得型プレゼンテーション (Persuasive Presentation, PP) の授業を11週にわたり実施した。授業では高校生に求められる程度の学術英語の基礎を内容とし、1) 学術語彙リスト (Academic Word List, AWL) (Coxhead, 2000) を活用した学術語彙・表現の指導と、2) PPのトピックを自ら設定し、概念的な問いを立て、その答えを探究する指導、の2点を重点的に行った。こうした指導を行ったところ、説得型の英文の特徴とされる①具体的な事例、②客観的な事実、③学術的な英語表現等、を含んだ発話が見られるようになった。生徒の発話を分析すると、AWLに含まれる語彙を含む英文も出現するようになった。本実践の成果は、本来は外国語の指導法ではないIBLの手法を用いて英語を指導することにより、英語の表現能力が向上することを示した点であろう。無論、課題も少なくない。PPは高度な言語活動であり、内容が学術的であることから継続的、体系的な指導の重要性が示唆される。

1 はじめに

今日、小学校から高等学校の全ての教育課程において言語活動の充実が求められている。特に高等学校における英語教育では、英語で発表したり、討論したり、交渉したりといった言語活動の高度化が重要な課題となっている。こうした言語活動の高度化は、グローバル人材育成の観点からも議論がなされている。本実践では、グローバル人材育成に資するとされる国際バカロレア (IB: International Baccalaureate[®]) (注1) の探究型学習の手法に着目し、最も高度な言語活動の一つと考えられる「説得型プレゼンテーション (Persuasive Presentation, PP)」の指導を試みた。

高等学校における英語プレゼンテーション指導では、本やインターネット等で調べた情報をまとめ、その内容を発表する「情報伝達型プレゼンテーション」が主流となっている現状がある。しかし、グローバルに活躍できる人材を育成する観点から英語教育を考えた場合、相手を説得できる英語運用能力とプレゼンテーションスキルの育成が不可欠である。実践にあたり、PPの定義として、発表者自らが課題を設定し、その課題に対する答えについて筋道を立て、幅広い視点で論じていく発表スタイルである、とした。

本実践は、IBの探究型学習を参考とした英語による表現活動における指導の具体例を示した報告である。また実践の結果、どの程度生徒のPPの能力が高まるかを検証した記録である。

2 実践の背景

2.1 IBと言語教育

IBの教育プログラムは、外国語運用能力の向上のみを目的としたプログラムではない。探究型学習と概念理解型の学習の考えを取り入れながら「多様な考え方で発揮できる知力を育成すること」(International Baccalaureate, 2008)を主な目的としたプログラムである。IBでは外国語はあくまでも学習を深めるツールの一つである。

一方、IBでは外国語を学習することを国際的な視野を育む観点や多言語主義の観点から重視している。特に、IBでは日常会話レベルの言語運用能力であるBICS (Basic Interpersonal Communication Skills: 基本的対人伝達能力)と呼ばれるレベルから、アカデミックな場面で必要とされる言語運用能力であるCALP (Cognitive Academic Language Proficiency: 認知・学習言語運用能力) レベルに言語運用能力を昇華させることが重要であるとしている。これは、高等学校段階のIBプログラムであるディプロマ・プログラム (DP) が、研究することをメインとしている大学、いわゆる研究大学で学ぶための準備教育としての性格をもっているからである。こうしたIBの言語教育に対する考えを参考とし、本実践ではCALPレベルの語彙や表現を生徒が理解できる指導を行った。

2.2 新学習指導要領とIB

近年、高等学校の新学習指導要領の考え方にIBの教育手法を参照する動きが出てきている。例えば、文部科学省事業評価書 (平成24年度) では、「国際バカロレアのカリキュラムや指導方法、評価方法等を研究し、我が国の教育に取り入れていくことは、新学習指導要領が目指す『生きる力』の育成や新成長戦略に掲げられている重要能力・スキルの確実な習得に資するとともに、学習指導要領の見直し等の際に有効な実証的資料となる。」(文部科学省, 2012)としている。しかし、IBの

教育手法がプレゼンテーション等といった言語活動の高度化にどの程度効果があるかどうかは実証・検証されていない。

文部科学省 (2014) の「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】」では、「適切な主題を設定し、資料を活用して探究し、考えを論述する。」という例が示されている。これを英語の授業において実践する方法として、学習者自身がテーマや問いを設定し、探究のための手順や手続きも生徒が決める「オープン探究型学習 (open-inquiry)」という手法を本実践では用いた。

2.3 探究型学習 (Inquiry-based Learning, IBL)

IBLは言語運用能力の向上に役立つと言われている。特にBylund (2011) は、IBLと概念理解型学習は言語習得、とりわけアカデミックな言語能力の向上に効果があると報告している。本実践では、こうした主張に基づき、高等学校段階でのIBLの結果、どの程度学術的な英語の語彙が増加したのかを検証した。

Spronken-Smith and Walker (2010) は、IBLとは自ら問いを立て、問いに対して幅広く調査・研究し、新しい知識を創造し、課題を解決する方策を立てていくことであると定義し、探究の種類を以下の3タイプに分けている。

ア: structured-inquiry: 教師がテーマや問いを設定し、決められた手順で生徒に探究を促す。

イ: guided-inquiry: 教師がテーマや問いを設定するものの、探究のための手順・手続きは学習者が決める。

ウ: open-inquiry: 学習者自身がテーマや問いを設定し、探究のための手順や手続きも生徒が決める。

本実践では、資料・文献調査から自分の意見の構築までを自ら探究させ、学習の楽しさに気付かせ、内発的動機づけを高めることが重要であると考え、ウの「open-inquiry」を採用した。

IBLの指導を充実させるため、1) 科目横断型スタイルを採用し、課題の解決方法を創造的かつ分析的に考察すること (Gardner, 2004)、2) 探究の結果生まれた「問い」は他の課題解決にも応用可能である「概念的な問い」になるよう指導すること

(Branch and Solowan, 2003) , の2点を採用した。

なお、DPの科目「知の理論 (Theory of knowledge)」の Subject Guide (International Baccalaureate, 2014a) では、「概念的な問い」とは、① Yes/Noでは答えられないオープンな問いであること、② 幅広い問いで、汎用性の高い問いであること (実社会の他の状況においても重要性をもちえる問いか) であると説明している。

3 実践方法

3.1 対象, 方法

日本語を母語とする高校1年生10名 (n=10) を対象とし、計11週の授業を実践した。1回の指導時間は1コマ45分×2コマ連続の計90分間である。本実践では、学習者自身がプレゼンテーションを通して、1) 学術的な英語を使用すること、2) 概念的な問いを立てられること、3) 聞き手を説得できるような課題解決方法が提案できること、を目標とした。目標達成のため、次の5つの段階に分け指導した。

- ステップ1** 自分や相手の価値観や考え方の違いを知る
- ステップ2** BICSとCALPの違いを知り、活用できる
- ステップ3** プレゼンテーションの骨子を理解する
- ステップ4** 情報伝達型プレゼンテーションとPPの違いを理解する
- ステップ5** 概念的な問いを立て、身近な課題やグローバルな課題を分析する

なお、効果の検証にあたっては、表1に示すツールを使用した。第7週と第10週に実施したプレゼン

■表1: 収集した効果検証のツール

回収時期	種類
第7週	第1回目プレゼンテーションの録音・録画
第10週	第2回目プレゼンテーションの録音・録画
第11週	振り返り課題 (reflective essay)

テーションでは、ビデオで生徒の発表を録音・録画し、生徒の語彙・表現を分析した。また、第11週の振り返り課題 (reflective essay) では、生徒自身がどのような能力 (コンピテンシー) (注2) が伸長したと実感しているのかを検証した。

3.2 実践全体での共通指導

実践全体を通して、共通して行った指導は以下の3点である。

① **IB学習者像 (IB Learner Profile) (注3) の提示**
IBの教育手法では、10の学習者像 (IB Learner Profile) を学習者と教師が共有し、毎時の学びがどの学習者像と関連しているのかを明示することを特徴としている。そこで、IBの10の学習者像 (IB Learner Profile) を毎時の授業で示し、プレゼンテーションのための学びを通して、どのような能力 (コンピテンシー) を身に付けてもらいたいのかを生徒に明示した。

② **多様な価値観や物の見方を受け入れる**

学習スタイル

言語能力を伸ばす教室環境の絶対条件として、Cummins (2007) は、多様なものの見方を受け入れる環境の中で、生徒一人一人のアイデンティティが肯定され、協働学習等を通して自尊心を育める機会を与えることが不可欠であるとしている。IBLでは、相手の多様な意見や考えを受け入れ、尊重する姿勢が必要であることから、生徒・教師間の双方向型の指導スタイルや生徒同士との学び合いを深めるためのペアやグループでの学習スタイルを多く取り入れた。

③ **評価基準 (ルーブリック) の提示**

身に付けるべき能力 (コンピテンシー) を可視化し、到達目標を明確にするためにルーブリックを事前に提示した。IBの教育手法では、ルーブリックに基づく評価活動を重視し、授業内容と評価活動の一体化が重視されるためである。なお、本実践における実際の授業の流れと評価活動との関連性は、表2に示す通りである。

■表2:学習内容と評価活動一覧

実施週	学習内容	評価活動
第1週	①自分・相手の価値観や考え方を知る。	300-500語程度の振り返り課題
第2～3週	②BICSとCALPと違いを理解し、活用する。	筆記による確認テスト
第4週	③プレゼンテーションの骨子を理解する。	
第5～7週	④情報伝達型プレゼンテーションとPPの違いを理解する。	第1回目プレゼンテーション
第8～11週	⑤概念的な問い (concept-based question) を立て、効果的に学習者自身の経験や体験、身の周りの出来事 (real-life situations: RLS) を織り交ぜる方法を理解する。	第2回目プレゼンテーション 振り返り課題 (reflective essay)

4 授業の実際

4.1 自分や相手の価値観や考え方を 知る指導【第1週】

この指導の目的は、自分や相手の価値観を知り、多様な物の見方や考え方に気付くことである。PPの実施にあたっては、自分の意見や考えを論理的に構築するのみではなく、聞き手の物の見方を把握し、聞き手が納得できる内容を盛り込むことも、プレゼンテーションの成功の可否を決めると考えたからである。

4.1.1 指導手順

- 1) 価値観 (value) を表す語彙を、生徒に1語ずつ挙げるよう指示した。
- 2) love, honesty, caringといった価値観 (value) を表す20個の単語を書いた用紙を配布し、その中から3つ、自分が大事だと感じているものを選ぶよう指示した。
- 3) ペアを組み、なぜ3つの価値観 (value) が自分にとって大事なのか、個人の経験や体験を織り交ぜながら相手に英語で伝えるよう指示した。
- 4) 300から500語程度のまとまった英文を書くこ

とを指示した (教材例1 (図1))。

なお、4) は家庭学習用課題とし、第2週の授業で提出することとした。

- 5) 教材例1を示したあと、評価基準 (ルーブリック) (資料1: 教材例2) を示し、学習の到達目標を可視化した。

なお、評価基準 (ルーブリック) はIBのディプロマプログラム (DP) 科目「Language B」のSubject Guide 及び国内外のIB認定校のプレゼンテーションで使用されているルーブリックを参照し、筆者が作成した。

4.1.2 生徒の反応

ルーブリックを意識した課題作成について戸惑う様子を見せた。聞き取り調査では、中学校までの学習で、ルーブリックに基づき学習を行う形態の授業を経験したことがない生徒が全員であることが分かった。そこで、ルーブリックの基準や見方を丁寧に説明した。加えて、振り返り課題の作成途中または作成後に、ルーブリックに示された基準を全て網羅できているかどうかを確認するよう指導した。その結果、全員の提出課題がルーブリックに示された評価項目を網羅したうえで課題に取り組んでいたことが確認できた。

Write a 300-500 word essay in which you reflect on what values you selected as your top three, and the reasons that these were so important to you. Furthermore, explain why you chose your top strength over all of the other ones. Why is that so important to you?

In your last paragraph, reflect on what this activity (in class, and this essay) has taught you about the way you consider what is important to you as a young person.

■図1:教材例1:a 300-500 word essay

4.2 BICSとCALPを理解し、活用する指導【第2～3週】

この指導の目標は、PPの場面で、CALPレベルの語彙・表現を意識しながら発表を行うことができる事前知識を身につけることである。

4.2.1 指導手順

指導方法として、まずBICSとCALPのそれぞれの特徴を示し、違いに気付く指導を行った(教材例3(図2))。次に、BICSとCALPの違いの理解を深めるため、BICSレベルの英文をCALPレベルに昇華させるためにどのように英文を書き換えたらよいかを個人で演習を行わせた。その後、ペアになり、どの語彙・表現を変えればCALPレベルの英文になるかを話し合うよう促した(教材例4(資料2))。

なお、教材例の下線部はあくまで筆者による解答例であり、学習者の答えが一つであるとは限らない。

4.2.2 生徒の反応

本実践に参加した生徒の母語は日本語であるが、英語を得意とする、あるいは好きな生徒が多いため、BICSレベルの英語を使用することには抵抗感がない。一方、CALPレベルの英語を使用

することについては負荷を感じている生徒が多かった。特に、資料2:教材例4の7“Avoid vague words that we use in spoken language”について、CALPレベルに昇華するのに苦労している生徒が多かった。しかし、本指導を通して、生徒のほとんどがCALPレベルの英語を楽しみながら使用しようとする学習姿勢が見られた。

4.3 プレゼンテーションの骨子を理解する指導【第4週】

この指導の目標は、プレゼンテーションの準備プロセスを理解し、準備に役立てるよう支援することである。

4.3.1 指導手順

- 1) PPで求められるIBの学習者像 (IB Learner Profile)を示した(教材例5(図3))。
- 2) PPで求められるスキル(技能)を明示した(教材例6(図4))。
- 3) PP実施に向けた学習プロセスを提示した(教材例7(図5))。
- 4) なぜこれらの学習プロセスが重要なのかをペア及びクラスで意見を交換した。

BICS Basic Interpersonal Communication Skills	CALP Cognitive Academic Language Proficiency
- Easy: don't have to think or plan.	- Harder to develop for ESL students because it uses more sophisticated language.
- Language of friends and people close to us	- The formal language of written / spoken academic reports/printed material
- Can express ourselves freely	- Does not use contractions
- Includes emotion.	- Is mostly unemotional.
- Includes contractions, such as cannot → can't	- Is mostly impersonal
- Highly contextualized (e.g. Let's go down this way to the place we went last week.)	- Is decontextualized: author has to provide the context.

Hedges, King, Maclure & Swash(2012).を基に筆者が作成

■図2:教材例3: BICSとCALPの違いを示す教材

LEARNER PROFILE

- Inquirer: You need to do research to gather information for your presentation.
- Communicator: You need to express yourself confidently in the presentation.
- Risk-taker: Choosing a topic that will engage your classmates involves taking a risk.
Will your presentation persuade your classmates?

■図3:教材例5:英語プレゼンテーションで求められる学習者像

SKILLS NEEDED	
Organization skills:	- Time management: keep to deadlines. - Self-management: organize your materials.
Information Literacy:	- Accessing and selecting information.
Communication skills:	- Using clear language to convey your ideas. - Use media to help communicate your ideas.

Hedges, L., King, L., Maclure, G., & Swash, L.(2012).を基に筆者が作成

■図4:教材例6:英語プレゼンテーションで求められるスキル

Brainstorming:	Write at least five different topics for your persuasive presentation. Put one line through the topics you have eliminated. Next to the words write a brief note about why you decided to eliminate this topic as a choice. Finally, circle the topic you chose • Explain why you chose this topic: • Thesis Statement / Problem Statement
Preparing for Research:	• Prior Knowledge: What does your audience already know about the topic? • What do you want the audience to know by the end of your presentation? • Gaps in your knowledge: What do you need to learn or research about the topic for your presentation? • How will you find this information?
Research	Summarize the important information you have discovered from your research. This summary will be given to your teacher. Keep the original notes you take for use in writing your presentation.

Brown University.(2006).を基に筆者が作成

■図5:教材例7:英語プレゼンテーションまでの学習過程

4.4 情報伝達型プレゼンテーションとPPの違いを理解する指導【第5～7週】

この指導の目標は、情報伝達型プレゼンテーションとPPの違いを理解すること及びPPの組み立て方を知り、実際に簡単なプレゼンテーションができるようにすることである。

4.4.1 指導手順

- 1) タイトルを見て、情報伝達型プレゼンテーションかPPのどちらかを類推させた(教材例8(図6))。
- 2) PPの組み立て方を提示した(教材例9(図7))。
- 3) その後、“Wearing a cycle helmet should be compulsory in Japan”という題でプレゼンテーションを行うとしたら、教材例9の1) Awareness of the problem から 5) Understanding how they, the audience, must actのどれに該当するかを考えさせ、左側の空欄に番号を記入させた(教材例10(図8))。
- 4) 3-5分程度のプレゼンテーションを第7週の授業で実施することを伝え、テーマの設定も生徒自

- 身で行うよう指示した(教材例11(図9))。
- 5) PPの評価基準(ルーブリック)を示し(教材例12(資料3))、ルーブリックを参照しながら、どのようなプレゼンテーションが良いプレゼンテーションとされるのかを話し合った。
 - 6) 第7週に1人3-5分程度の「第1回PP」を実施し、生徒同士が相互に評価・コメントし合う場面を設けた。
 - 7) 第8週の授業の最初で生徒に評価の結果を提示し、プレゼンテーションの振り返りを行った。その際、個別に振り返りを行い、後日ノートの提出をさせた。
- なお、振り返りの項目は以下の3つとし、それぞれを英文で簡潔にまとめるよう指示した。
- What new skills or knowledge did you learn from the process?
 - What challenges did you face?
 - How could you use this experience of producing a persuasive presentation in the future?

1	Bicycle Helmets Should Be Compulsory in Japan	2	The Life of Helen Keller
3	To Try and To Fail is Better Than Never Trying At All	4	How the Moon's Gravity Affects the Tides
5	An Examination of "I am a Cat" by Natsume Soseki	6	You Can Make a Difference

■図6:教材例8:情報伝達型プレゼンテーションかPPかの区別

Persuasive presentation is used to influence both individuals and groups to accept a particular position or belief. The speaker must take the audience through five stages of understanding in a persuasive presentation.

- 1) Awareness of the problem
- 2) Understanding the problem
- 3) Understanding the proposed solution
- 4) Visualization of the effects of the proposed solution
- 5) Understanding how they, the audience, must act

Brown University.(2006). より引用

■図7:教材例9:PPの構成要素

Write the appropriate number next to each sentence.

Wearing a cycle helmet should be compulsory in Japan	
	Many of these head injuries occur because cyclists do not have adequate protection.
	You can make a change. Write letters to your Diet member. Start a petition to send to parliament.
	Imagine one hundred young people every year without brain damage, without spending the rest of their lives in a wheelchair, without needing extra support from friends and family.
	Every year, hundreds of young people suffer head injuries from bicycle accidents.
	Making bicycle helmets compulsory will reduce the number of serious head injuries.

■図8:教材例10:PPの構成の順番

At the end of this term, you will prepare and present a persuasive presentation to the class. The topic is your choice. However, it should be strong and provide enough depth to generate a decent presentation of persuasive nature.

Requirements:

Length: 3-5 minutes.

Just before the presentation hand in to your teacher a list of all references.

You will be marked according to the rubric.

■図9:教材例11:プレゼンテーション指示文

4.4.2 生徒の反応

生徒にとっては入学後初めて実施するPPであったが、全員が堂々としたプレゼンテーションを行っていた。一方、資料3の評価項目の1つである“Academic Language”の、

- Effective use of rhetorical devices.
- Appropriate use of formal language

の2点については、十分に達成できているといえる生徒が少なかった。生徒への聞き取り調査では、「書き言葉（ライティング）では意識して学術的な語彙・表現を使おうと意識できるが、いざ口頭での発表となると、意識がいきにくくなる」と述べていた。口頭による発表でアカデミックな語彙や表現が意識して使用できるよう、生徒（発表者）の発表内容を録音し、会話分析等を行い、生徒自身が振り返りを行う場面を設けることが今後の手立てとして必要かもしれない。

4.5 概念型の問い (Concept-based question)を立て、 課題を解決する指導【第8～11週】

この指導の目標は、生徒自身が課題を設定し、その課題に対する答えを探究し、PPの場面で聴き手を説得できる課題の解決方法を提案できる力を養うことである。

4.5.1 指導手順

課題の設定とプレゼンテーションの構成内容については、IBのディプロマ・プログラム（DP）のコア科目の1つである「知の理論：Theory of knowledge（TOK）」の教育手法を参考とした。具体的には、

- 1) 「概念」とは何か、「概念的な問い（concept-based question）」とはどのようなものか、を考えさせ、実際に「概念的な問い」を立てる練習を行った。
- 2) プレゼンテーションの中身に、グローバルな視点を盛り込むよう指導した。
- 3) 「実社会での事例（real-life situation: RLS）」を1～2つ盛り込み、RLS自体が「概念的な問い」に対する答えのヒントとなるようなものにするを指導した。

4.5.2 指導の具体例①

— 「概念」と「概念的な問い」の指導

IBの教育手法は「概念」の形成と活用を重視している。これは、それぞれの教科・科目で身につけた知識・技能を、実際の場面で活用できる力「知力」を重視しているからである。IBでは、「概念」の定義を特定の教科・科目にのみ通用する思考ではなく、教科横断的な場面でも通用する思考である、としている。

また、IBの教育手法では「概念的な問い」をもつことも重要であるとしている。DPのコア科目「TOK」では、知識に関する問い（knowledge question）とも呼ばれるもので、

- 1) オープンエンドな問いであること（YesかNoで答えられないもの）
- 2) 他の諸課題にも対応できる汎用性の高い問いにすること
- 3) 知識そのものに関わる問いであること

を主な特徴としている。例えば、新聞で「繁華街での犯罪発生状況」に関する記事を読み、プレゼンテーション実施にあたり「概念的な問い」を立てるとする。その際、「防犯カメラを設置すれば、繁華街での犯罪は抑制できるのか。」といった問いは、「概念的な問い」であるとはみなされない。この問いは、YesかNoで答えられるものであり、かつ、防犯カメラの設置の有無のみに答えを見出すため、汎用性の低い問いであると判断される。一方で、「視覚、聴覚、嗅覚といった人間の感覚は、どの程度人の意思決定に影響を及ぼすのだろうか。」といった問いは「概念的な問い」であると判断される。YesかNoで答えられないものであることに加え、かつ、「犯罪」という狭いトピックから、より上位の概念である「人間の意思決定」という点に着目し、より汎用性の高い問いに昇華させているからである。

本実践では、指導内容として、「概念」とは何か、概念としてキーワードを挙げるとしたらどのようなものがあるのか、といったことの事例を最初に示し、その後ペア又はクラス全体で概念に関するキーワードを挙げていった。その後、個人で概念的な問いを考え、クラス全体で一人一人が考えた問いが「概念的な問い」かどうかをクリティカルな視点で考えるよう支援した。

4.5.3 指導の具体例②

ーグローバルな視点の指導

PPにおいて、「概念的な問い」を立てる主な目的は、問い自体を汎用性の高いものにし、世の中に存在する諸課題の解決に幅広く応用するためである。本実践では、生徒がある程度「概念的な問い」が立てられるようになった後、プレゼンテーションの目的は、自らがグローバルな社会の一員として、地球規模もしくは地域での課題解決を図れる力を養うことであることを説明した。

IBの教育手法では、ローカル（地域）とグローバル（地球規模）の諸課題は切り離せないものとしており、本実践においても生徒はローカル（地元のことのみならず、自分の体験や経験も含む）とグローバルな諸課題を概念的な問いによって結び付け、諸課題の解決方法を提案できるようにした。

プレゼンテーションを行った生徒の中には、日本国内の新規の保育園開設における問題を取り上げ、園児たちの声を騒音とみなし、反対運動が一部で起きていることを取り上げていた。同時に、北欧諸国の事例を取り上げ、日本との意識や文化の差について触れ、国内の保育園開設に関する問題を解決する方法について、北欧諸国との対比により自分の論を展開していた。グローバルな視点を盛り込むことは、生徒の視野を広げ、世界には様々な物の見方や考え方があることを実感させるのに役立つ。

4.5.4 指導の具体例③

ー実社会での事例 (real-life situation: RLS) の指導

「実社会での事例 (real-life situation: RLS)」は新聞、雑誌、ニュース、本等といった様々な媒体で

見聞したものや、自分の身の回りで感じている疑問や常識だと思っている事例を指す。本実践では、生徒自身が疑問に感じている、あるいは興味のあるRLSを取り上げ、RLSから「概念的な問い」を立てるよう指導した。なお、「概念的な問い」が汎用性のあるものであることを証明するため、「実社会での他の事例 (other real-life situations)」も1~2つ取り上げるよう指導した。

4.5.5 指導の具体例④

ー第2回PPの実施

第2回PP実施にあたり、第1回PPで指導した基本構成を踏まえつつ、図10（教材例13）の手順を踏むよう指導した。本実践では、まず第1回目プレゼンテーションで提示した評価基準（ルーブリック）を事前に示し（資料3: 教材例12）、1週間の準備期間を経たあと、パワーポイント等といったプレゼンテーションソフトを一切使用せず、口頭のみでプレゼンテーションを実施した。パワーポイント等といったプレゼンテーションソフトを使用しなかった主な理由は、視覚資料の作成よりも、会話の中身を十分に推敲し、発表する内容の質を高めるために時間を使ってほしかったからである。生徒は1人あたり5分程度でプレゼンテーションを実施し、プレゼンテーション後は2~3分程度の時間を取り、他の生徒が発表者に質問をする、といった指導手順を経た。なお、聞き手は発表者が発表している間は、質問事項をメモするなどするよう指示した。

4.5.6 生徒の反応

概念的な問いを立てるのに苦労した生徒が多かった。ただし、生徒同士で自分が立てた問いを披

- ① 実社会での事例や課題 (Real-life situation: RLS) に着目する。
- ↓
- ② 概念的な問い (concept-based question) を立てる。
- ↓
- ③ 地球規模的 (グローバル) な視点から①を捉え、実社会での他の事例 (other real-life situations) を1~2つ紹介し、概念的な問いが適応可能かどうかを説明する。
- ↓
- ④ ②で立てた「概念的な問い」に対する答えを述べる。
- ↓
- ⑤ 課題の解決方法を述べる。

■図10:教材例13:PPの手順

露しあい、互いに議論をしながら、妥当な問いかどうかを判断する活動が役立ち、最終的には生徒全員が「概念的な問い」を組み立てることができるようになった。

生徒は「実社会での他の事例」を見つけるために、学校の図書館や公共の図書館、Pro-Quest®といった電子サービスを利用しながら英語で書かれた雑誌・論文等を調べるといった探究の過程を踏んだ。その結果、多くの生徒が「探究の結果、多くの英文に触れ、プレゼンテーションで使用する語彙や表現の参考となった。」と述べていた。

実際のプレゼンテーションでは、発表者と聴衆の一体感を出すよう、10人分の机を一つの島にし、お互いの顔が見えるような配置とした。また、プレゼンテーションソフトを使わず、かつ原稿等は一切見ないで発表するよう促したことから、聴衆の表情を見ながら相手に訴えかけるようなプレゼンテーションを行っている生徒が多かった。

5 結果と考察

本実践を通し、生徒のPP能力の伸長がどの程度見られたのかを考察するため、計2回のプレゼンテーションにおける生徒の使用語彙・表現の分析を行った。加えて、振り返り課題 (reflective essay) から、生徒が本実践での学びをどのように感じていたのかを分析した。

5.1 CALPレベルの語彙の検証

計2回のプレゼンテーションにおける生徒のCALPレベルの語彙・表現にどのような変化が見られたのかを検証した。

5.1.1 AWLの変化状況

計2回のプレゼンテーションにおける生徒のCALPレベルの語彙の使用状況を分析するため、Oxford Academic English Dictionaryのi-writerを用いて、Academic word list (AWL)に含まれる語彙を抽出し表3にまとめた。AWLとは、学術的な文や講義などを理解するために有用な570語の単語リストであるが、表3からは、生徒のAWLに含まれる語彙の使用が全体的に伸長していることが分かる。

■表3: AWL使用状況の変化

生徒	第1回	第2回	差
A	7	16	+9
B	1	7	+6
C	4	4	±0
D	7	6	-1
E	14	15	+1
F	8	5	-3
G	3	11	+8
H	2	7	+5
I	2	4	+2
J	5	10	+5
平均	5.3	8.5	+3.2

■表4: 生徒のプレゼンテーションにおけるAWLの使用状況例(第1回プレゼンテーション)

Broccoli has tons of nutrition and <u>affect</u> to your body and health.
I want to <u>convince</u> you why Kamakura is famous destination in Japan.
Most of food waste happened during marketing and <u>consuming</u> process.
Another <u>expert</u> says that there is 22% of children cannot speak their mother tongue of their languages.
If you have enough sleep, you also have <u>positive</u> effect.
<u>Appropriate</u> use of language...
In <u>conclusion</u> , what we do for food waste is now is to realise reduce the number of food waste is each person.

品詞毎にみると名詞の使用頻度の上昇率が他の品詞と比較して高かった。これは、名詞が最も学習者にとって扱いやすい品詞であり、かつ表現の場面で使用頻度が高いことが影響していることと予想される。

5.1.2 CALPに該当する表現

AWLが含まれる文が、プレゼンテーションの中でどのような使用されているのかを分析した(表4, 5)。表中の下線部はAWLに含まれる語彙を表す。

なお、生徒の発表内容が他からの盗用がないかどうかを診断するため、剽窃診断ソフト「turnitin®」を使用した。結果、剽窃の度合を表す類似度判定は0%だったことから、以下の表に示す全ての生徒の発話例は完全にオリジナルのものである。

表4は第1回目のプレゼンテーション、表5は第2回目のプレゼンテーションの結果を示したものである。それぞれを比較すると、AWLが含まれる文が高度化していることが分かる。例えば、AWLに含まれる語彙が1つの英文で複数個使用される例が第2回目では見られた。これは、第2回目では、プレゼンテーション実施にあたり、生徒が英語で書かれた資料や文献を第1回目と比較しても数多く触

れたことに影響しているものと考えられる。

5.2 プレゼンテーション能力の変化

第1回目のプレゼンテーションでは、ウェブで調べた内容の羅列に留まっており、聴衆を説得するに値する意見や問いかけが含まれていたとは言えなかった。一方、第2回目では、自分で立てた問について自分の経験や体験を基に、収集したエビデンスを自分の体験や経験と結び付けながら発表する等、聴衆が興味をもってプレゼンテーションを聞く様子が見られた。

他の生徒にも同様の傾向が見られ、ルーブリックによる得点も全体的に上昇した(表6)。

■表6:ルーブリックの得点変化

評価項目	第1回 (平均点)	第2回 (平均点)	差
Content	3.0	4.2	+1.2
Structure	3.1	3.9	+0.8
Academic language	2.9	4.1	+1.2
Presentation skills	3.2	3.8	+0.6

■表5: 生徒のプレゼンテーションにおけるAWLの使用状況例(第2回プレゼンテーション)

The <u>reliability</u> of common sense is depended on each believer's <u>perspective</u> .
Since arts for example, painting, sculpture, handicrafts, architecture music, dance and poem are the properties which are <u>created</u> by human's activities for <u>appreciating</u> the values, however, when human cannot find those values, arts will not <u>affect</u> human's behavior or mind.
To what extent do <u>circumstances</u> or <u>environments</u> affect to the emotion?
How does <u>cultural context</u> <u>affect</u> the <u>communication</u> ?
Some teens are not enough <u>matured</u> to accept things that is different.
There are differences of <u>definition</u> of beauty on each country.
This <u>conference</u> is quite <u>crucial</u> because of the new <u>outcomes</u> of international agreement on climate change.
Government can <u>manipulate</u> people by using and <u>restricting</u> media.
These words have <u>somewhat</u> <u>ambiguous</u> , unclear, or <u>flexible</u> broad meanings.
She thinks it is <u>inappropriate</u> to do that in public.

なお、評価の信頼性を高めるため、採点にあたっては第1回目、第2回目ともに筆者による第1次評価に加え、第2次評価としてIB認定校での経験の長い教師が発表の様子をビデオで観察し、得点の調整を行った。

5.3 修得した能力(コンピテンシー)

振り返り課題 (reflective essay) から採取した英文から、生徒がどのような能力を身につけたと実感できているのかを分析した (表7, 8, 9)。述べ語数は3853語、1人あたりの語数にすると平均して385.3語となる。

なお、回答の英文は原文のままのものである。

表7から、生徒は概念的な問いを組み立てることが批判的思考力の育成に役立つことや、課題の探究を深めるのに役立つことを実感していることが分かる。表8では、相手を説得させるプレゼンテーションを組み立てる際、自問自答することの大切さや、引用元がどのくらい信頼がおけるのか等が大切であることを実感していることが分かる。表9からは、本実践を通して生徒同士がそれぞれに異なった意見や考えをもっていることを実感し、さらにそれらを尊重することが大切であることを実感していることが分かる。

■表7: 生徒の回答の一覧(概念的な問いとIBLとの関連性)

「概念的な問い」を立てることとIBLとの関連性 4回答	...making concept-based question is highly effective for critical thinking. In order to come up with high level questions, to think critically and to see from different perspectives are necessary.
	the concept-based question has a value in terms of inquiring a study in detail. During the process of making the question and applying it to real life situations (RLSs), it was necessary for me to think deeply, and in detail.
	I found that there were many real life situations that can apply the concept-based question.
	The concept-based questions are useful because we can use them to explore the answers of issues.

■表8: 生徒の回答例の一覧(プレゼンテーションと説得力)

プレゼンテーションと説得力との関連性 6回答	Through giving and listening presentation, the way I think has changed. I became to focus more on the process of inquiring, not only the facts or result.
	This style of presentation makes the listeners think.
	...applying the process of presentation can help us to think in different perspectives.
	To persuade audience, I always thought about "To what extent is the source reliable?" or "how do I know whether the source is true?"
	To persuade others through presentation, it is important to ask questions to yourself.
	We need to inquire "To what extent are the sources reliable?" to persuade people.

■表9:生徒の回答例の一覧(多面的な視野)

多面的な 視野の獲得 5回答	I noticed that knowledge can be differ depending on each person's view point. So, it is important to discuss and exchange ideas among people.
	Approaching one thing from different perspectives also improves our way of thinking. I became more creative.
	If I did not attend lessons, I would have never had thought about how people think differently even though we are in the same age.
	I learned to respect others' ideas and opinions because the differences are valuable.
	The answer to a question is not only one and people have different answers, so we can think and know many kind of opinions.

6

結び—探究型の授業の普及拡大に向けて—

本実践を通して、AWLを含む語彙をプレゼンテーションの場面で活用できる力が昇華したこと、相手を説得するためには十分な探究のプロセスとエビデンスを要することを生徒が認識していたことが明らかになった。このことは、探究型で概念型の英語の授業が言語活動の高度化に資することが明らかになった点で意義の大きかった実践であると言える。

本実践研究では、(A) 探究型概念学習を取り入れ、(B) BICSとCALPを意識させながら、(C) PPを行った。生徒が授業を通して物事を批評的な視点で探究し、聞き手を説得できる力を身に付けられる仕組みにした。その結果、生徒のCALPレベルの英語運用能力が向上し、プレゼンテーションが説得型のものになったとの認識に変化したことから、本実践の有効性が示された。一方、本実践研究では、生徒による複数回の省察(リフレクション)を行っていない。省察(リフレクション)を複数回行うことにより、生徒がPPの能力の向上のために具体的にどのような探究を行えばよいのか、より具体的な言葉で表現されるものと思われる。

また、AWLの増加率から、CALPレベルの英語に昇華させるためには11週では十分とは言えない

ことも分かった。今後は、より多くの実践時間を設け、生徒のCALPレベルの英語力の昇華について観察していきたい。

文部科学省事業評価書(平成24年度)では、「国際バカロレアのカリキュラムや指導方法、評価方法等を研究し、我が国の教育に取り入れていくことは、新学習指導要領が目指す『生きる力』の育成や新成長戦略に掲げられている重要能力・スキルの確実な習得に資するとともに、学習指導要領の見直し等の際に有効な実証的資料となる。」(文部科学省, 2012)としている。今後、日本人が英語を使えるようになるヒントがIBには詰まっていると筆者は感じている。

本実践では、IBの探究型・概念型学習の特徴とその手法の一部を明らかにし、日本の英語教育改革にどのように役立つか述べたつもりである。今後、日本の高校生が相手を説得できる英語力を身につけ、世界を舞台に活躍できるようになってほしいと願う。

謝 辞

本研究の機会を与えてくださった公益財団法人 日本英語検定協会の皆様と選考委員の先生方に感謝申し上げます。とりわけ、小池生夫先生にはご助言を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。また、国内外の複数のIB認定校の先生方にも本報告作成にあたってご助言をいただきました。ここに御礼申し上げます。

注

- (1) 国際バカロレア (IB) のプログラムには3歳から19歳の児童・生徒の年齢に応じて、4つの異なるプログラムがある。3歳～12歳の児童を対象とするPYP (Primary Years Programme: 初等教育プログラム)、11歳～16歳の生徒を対象とするMYP (Middle Years Programme: 中等教育プログラム)、16歳～19歳の生徒を対象とするDP (Diploma Programme: ディプロマプログラム)、16歳～19歳の生徒を対象とし、キャリア関連学習を進めていくCP (Career-related Programme: キャリア関連プログラム)の4つである。
- (2) 文部科学省「OECDにおける「キー・コンピテンシー」について」では、「[コンピテンシー (能力)]とは、単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求 (課題) に対応することができる力。」と定義している。
- (3) IB Learner Profile (IBの学習者像)には、「探究する人」、「知識のある人」、「考える人」、「コミュニケーションができる人」、「信念をもつ人」、「心を開く人」、「思いやりのある人」、「挑戦する人」、「バランスのとれた人」、「振り返りができる人」の10項目があり、全人的な教育を本質としている。

参考文献 (*は引用文献)

- * Branch, J.L., Solowan, D.J. (2003). *Inquiry-based learning: The key to student success. School Libraries in Canada*, 22(4), P.6.
- Brown University. (2006). *Teaching and Persuasive Communication: Class Presentation Skills*. Retrieved from <https://www.brown.edu/about/administration/sheridan-center/sites/brown.edu/about/administration/sheridan-center/files/uploads/Teaching%20and%20Persuasive%20Communication.pdf>
- * Bylund, J. (2011). *Thought and Second Language: A Vygotskian Framework for Understanding BICS and CALP*. 39:5. National Association of School Psychologist.
- * Coxhead, A. (2000). *A New Academic Word List*. TESOL Quarterly, 34(2): 213-238.
- * Cummins, J. (2007). *Unpublished interview with Carol Inugai-Dixon on conditions for learning*. Interview conducted on 4 March 2007.
- * Gardner, H. (2004). How education Changes. In Suarez-Orozco, M & Qin-Hilliard, D, B. (Eds) *In Globalization, Culture and Education in the New Millennium*. (pp.235-258) CA: University of California Press
- * International Baccalaureate Organization. (2008). *Learning in a language other than mother tongue in IB programs*. Cardiff, UK: International Baccalaureate Organization (UK) Ltd.
- * Hedges, L., King, L., Maclure, G., & Swash, L. (2012). *Approaches to learning: a practical guide*. Cardiff, UK: International Baccalaureate Organization (UK) Ltd.
- * International Baccalaureate Organization. (2014a). *Theory of Knowledge. Subject Guide*. Cardiff, UK: International Baccalaureate Organization (UK) Ltd.
- International Baccalaureate Organization. (2014b). *Language B. Subject Guide*. Cardiff, UK: International Baccalaureate Organization (UK) Ltd.
- * International Baccalaureate Organization. (2014c). DP: 原則から実践へ. Cardiff, UK: International Baccalaureate Organization (UK) Ltd.
- * Spronken-Smith, R., & Walker, R. (2010). Can inquiry-based learning strengthen the links between teaching and disciplinary research? *Studies in Higher Education*, 35(6), 723-740.
- * 文部科学省. (2014). 「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】」. http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2015/03/27/1322425_01.pdf(2016年1月6日閲覧)
- * 文部科学省. (2012). 「文部科学省事業評価書 (平成24年度新規・拡充事業等) 1-1. グローバル人材育成推進のための初等中等教育の充実等 (新規)」. http://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/1311777.htm (2016年1月6日閲覧)
- * 文部科学省. (n.d). OECDにおける「キー・コンピテンシー」について. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/05111603/004.htm (2016年1月6日閲覧)

資料1:教材例2:エッセイのルーブリック

	Discussion of values	Reflective content	Use of academic language	Structure	Grammar and Spelling
	<ul style="list-style-type: none"> Justification of values, with examples Explanation of significance of top value 	<ul style="list-style-type: none"> Reflection on values in student's life Reflection on the significance of the class activity and essay 	<ul style="list-style-type: none"> Academic style Tone Diction 	<ul style="list-style-type: none"> Structure of the essay including introduction, body, and conclusion. Discussion of values also follows a balanced structure 	<ul style="list-style-type: none"> Accurate use of language to create meaning Range of grammatical structures Spelling
5	All 3 values are justified with clear reasoning. The top value is clearly identified with detailed examples that explain its importance.	Essay shows thorough reflection on the importance of the values in the student's life, and furthermore, what the activity and essay taught them about themselves.	Essay is written with an outstanding level of academic style. Tone is mature and highly appropriate for the task. Diction is sophisticated, and clearly conveys ideas.	Essay is exceptionally well-structured with introduction, body, and conclusion. All values are discussed with natural flow and balance, and discussion of the top value is well-weighted.	Language use is highly accurate and shows complex construction of a range of grammatical structures. Spelling is accurate.
4	All 3 values are justified, and the top value is identified and its importance explained.	Essay shows good reflection on the importance of the values in the student's life, and furthermore, what the activity and essay taught them about themselves.	Essay is written with a high level of academic style. Tone is mature and appropriate for the task. Diction is well-chosen, and conveys ideas well.	Essay is well-structured with introduction, body, and conclusion. All values are discussed in a rational structure.	Language use is accurate and shows some use of a range of grammatical structures. Spelling is mostly accurate.
3	Values are discussed loosely and some reasons are given for the importance of the top value.	Reflection about the importance of the student's life values is evident, and some reflective thought is shown regarding the significance of the activity and essay.	Essay is written with some evidence of academic style. Tone is formal but diction is limited. Ideas are conveyed through basic language.	Essay is structured appropriately, but introduction, body, or conclusion is either missing or inadequate.	Language use is mostly accurate and shows some attempt at using different grammatical structures. Spelling mistakes are evident.
2	Values are discussed sparingly with little justification.	Reflection is not clear, and the significance of the activity and essay is weak.	Essay is written in less-formal style, and diction is limited. Ideas are conveyed through basic language.	Essay is structured poorly, and introduction, body, or conclusion is either missing or inadequate.	Language use is inaccurate and meaning is somewhat compromised. Grammatical structures are basic, and spelling mistakes are common.
1	Not all 3 values are discussed and the top value is not presented.	Little reflection is evident.	Essay is written in a style inappropriate for academic submission.	Essay shows little evidence of structure.	Grammar and spelling are mostly inaccurate and subsequently meaning is highly compromised.

Hedges, King, Maclure & Swash (2012). International Baccalaureate Organization. (2014b)を基に筆者が作成

資料2:教材例4:BICSからCALPへの昇華を指導する教材

1. Avoid using I (me, my, mine) or we (our, ours) to express an opinion.	✗ In the future, <u>I want</u> the United Nations to take <u>more control</u> in refugee emigration.
	☑ In the future, <u>it is hoped that</u> the United Nations <u>take more control</u> in refugee emigration.
2. Avoid addressing the reader as you or the reader.	✗ The language used in the poem <u>makes you feel</u> in awe of the beauty of the sea.
	☑ The language used in the poem <u>elicits a feeling</u> of awe at the beauty of the sea.
3. Consider nominalisation* to express ideas efficiently and more maturely. * nominalisation = expressing a verb as a noun (e.g. "increasing pressure" → "the increase in pressure")	✗ The waves <u>move constantly</u> and this causes sand to <u>move along</u> the beach.
	☑ The <u>constant movement</u> of the waves causes sand <u>to move along</u> the beach.
4. Avoid colloquial (spoken) language.	✗ Copper, when heated, reacts with oxygen to produce a <u>really cool</u> green flame.
	☑ Copper, when heated, reacts with oxygen to produce a <u>bright</u> green flame.
5. Avoid contracted forms.	✗ <u>There's</u> a strong movement for change in <u>many Islamic regions</u> of the world today.
	☑ <u>There is</u> a strong movement for change in <u>many Islamic regions</u> of the world today.
6. Avoid words that express your emotion rather than show evidence.	✗ In the face of <u>overwhelming scientific evidence</u> , <u>it is ridiculous to argue</u> against climate change.
	☑ In the face of <u>overwhelming scientific evidence</u> , <u>arguments against climate change are futile</u> .
7. Avoid vague words that we use in spoken language, e.g. big, biggest, good, thing, nice, like, etc.	✗ At the Hachiko exit of Shibuya station, there is a <u>cute</u> statue of a dog, <u>that represents a really nice</u> story.
	☑ At the Hachiko exit of Shibuya station, there is a <u>bronze</u> statue of a dog, <u>that represents a moving</u> story.
8. In general, use a one-word verb instead of a phrasal verb* (as in spoken language). *phrasal verb = 2-word verb phrases. e.g. "go over" (review), "hand in" (submit), "pick out" (choose)	✗ To improve better <u>cardiac health</u> , we should <u>cut back on</u> our consumption of high cholesterol foods.
	☑ To improve better <u>cardiac health</u> , we should <u>reduce</u> our consumption of high cholesterol foods

Hedges, King, Maclure & Swash (2012).を基に筆者が作成

資料3:教材例12:第1回および第2回PPの評価基準表(ルーブリック).....

	Content	Structure	Academic Language	Presentation Skills
	<ul style="list-style-type: none"> Valid reasons are given with supporting evidence. The topic and content maintain the audience interest 	<ul style="list-style-type: none"> There is a logical order to the presentation. The Thesis statement is clearly made 	<ul style="list-style-type: none"> Effective use of rhetorical devices. Appropriate use of formal language 	<ul style="list-style-type: none"> Effective body language Effective use of voice
5	Two or more valid reasons are given with good supporting evidence. The topic and content maintain the audience interest throughout the presentation.	The introduction is very inviting and a clear thesis statement is made. Information is extremely well structured with an introduction, main body and conclusion.	A variety of very engaging rhetorical devices are used. Appropriate formal language is used throughout the presentation.	Very effective use of body language, eye contact, movement and the pace of the presentation. Very effective use of variation and volume of voice.
4	Two or more valid reasons are given with supporting evidence. The topic and content maintain the audience interest through much of the presentation.	The introduction is inviting and a clear thesis statement is made. Information is well structured with an introduction, main body and conclusion.	A variety of engaging rhetorical devices are used. Formal language is mostly used throughout the presentation.	Effective use of body language, eye contact, movement and the pace of the presentation. Effective use of variation and volume of voice.
3	One or two valid reasons are given with some supporting evidence. The topic and content maintain the audience interest through some of the presentation.	The introduction includes a thesis statement. There is an introduction, main body and conclusion.	A variety of rhetorical devices are used. Formal language is used somewhat throughout the presentation.	Some use of body language, eye contact, movement and the pace of the presentation. Some effective use of variation and volume of voice.
2	One or two reasons are given with little supporting evidence. The topic and content maintain the audience interest through a small part of the presentation.	The thesis statement is not clear. There is an attempt at an introduction, main body and conclusion.	Some rhetorical devices are used. Little formal language is used.	Minimal use of body language, eye contact, movement and the pace of the presentation. Little effective use of variation and volume of voice.
1	The reasons given are not valid. There is no supporting evidence. The topic and content do not hold the audience's interest.	There is no clear thesis statement. There is no clear introduction, structure or conclusion.	No or little use of rhetorical devices. No evidence of formal language. There are incomplete sentences. No discourse markers are used.	No presentation skills are shown. The student reads from a script with eyes down in a monotonous voice. There are many verbal fillers and restarts.

Hedges, King, Maclure & Swash (2012).を基に筆者が作成